

こんにちは。皆さんは元気ですか？ そちらの仕事は順調ですか？

最初に是非報告したいことがあります。先日メルカド(市場)で「チョン・チュン・チャン」と言われたのです。これは黄色人種に対しての蔑視表現で、バングラデッシュで使われています。バングラで使われている言葉がここニカにも全く同じ言葉としてあったのです。本当にびっくりしました。そしてとても悲しくなりました。

先日ニカラグアで全国統一市長選挙が行われました。ニカで選挙は市民生活に密接していて、みんな選挙の結果に一喜一憂しています。これだけだと日本と違って国民が選挙に関心を持っていて、素晴らしいといった感想を持つでしょう。

実はそう単純ではなく、例えば今までの政党と違った政党の市長が新しくなったりしたら、今まで働いていた幹部公務員が全員くびになり、勝った政党の支持者が仕事を得ることになります。公務員の中には自分の支持する政党が勝たないと、自分が失職する人もいる為みんな必死です。

これはこれで問題があり、幹部公務員が交代するとき必ずしもその仕事に精通している人間が幹部になるわけではありません。いきなり全く仕事ができない人や仕事をする気が元々ないただの勝利政党支持者が要職に付いてしまい、全く仕事が機能しなくなるなんて話はよく聞きます。

要職に就いた人間も自分の仕事が次回の選挙までの期間でしかない可能性もあるわけで、人によれば肝心な仕事は全くせず自分の保身に精を出し、賄賂がまかり通ってしまうとのことです。

日本では行政組織の前例主義・硬直した組織の弊害がよく言われたりしますが、ニカの事を考えるとどうなんだろうと思います。

ただ面白いのが選挙の前日はニカラグア全土で酒類が販売禁止になり、バーやスーパーに行ってもアルコール類は全く飲めないし購入できません。これは選挙に伴い暴動などが起こり、治安が悪化する可能性が増すからとのこと。幸いここレオンは平穏無事に過ぎましたが、首都マナグアでは盗難事件が多発したとのこと。こんなことでニカのラテン気質を感じます。



僕はこんなニカのレオンで生活していますが、最近周りのニカ人に朝「Hola! Como esta usted?」(やあ！ 調子はどう?)と聞かれてても頭が痛いと答えることが多いです。向こうが驚いて何故か尋ねると「講義の事で、頭の中でスペイン語がライダンスを踊っている」と答えると大抵のニカ人は笑います。

周りは僕がこんな感じで軽口をたたくから平気と思っているでしょうが、やっぱり講義を増やしすぎたかなと少々後悔しています。みなさん頼まれたからといって安請け合いせず、もっとNoと言える日本人になりましょう！！

でも講義自体は自分にとって結構楽しんでやっています。こじんまりとやっているからか参加している学生は皆かわいいです。

歯学部は5年制で、今回参加できるのは4年生のみの条件で行っています。

前回お知らせしたように参加者の要件は「やる気があること」で行っているためからか、皆なんだかんだといいながらもこの僕の無茶苦茶なスペイン語に文句も言わずに聞いてくれますし、講義以外の時間もラボに来て僕が出した宿題について尋ねてきたりします。

相変わらず失敗はガンガンやってくれますが、やる気があればそれでいいと思っているのであまり苦になりません。

でも不満が全くないわけではなく、最近歯科医および歯学部自体の組織的な問題が目につきます。つまり歯科技工士よりも、当然ですが彼らを管理する立場である歯科医側により多くの問題があり、彼らの意識を改善する方がはるかに現実的で確実であると強く感じます。詳しい内容はまあそのうちに……。

その為には僕の活動を彼らに啓蒙していくことが必要で、その方法をどうするかってなことをポーっと考えています。

!Tengo dolor de la cabeza!(頭が痛い)が最近常套句の渡辺敬蔵

先日レオンに居る隊員でシーカヤックを近くの海でしました。

このシーカヤックは2人乗りで僕は同期の根岸京子ちゃんと一緒にでした。ニカの雄大な自然に抱かれ、マングローブの林の中進んで行くわけです。

他の人達は楽しそうにマングローブが綺麗だとか、自然が素晴らしいとか、爽やかな話題が花咲いているのに何故か僕達は日本の嫁姑問題を熱く語り合い、高齢出産は危険だとか、思わずブルーになる話題をまるでお昼の番組の、みのもんたのように話していました。

なんか周りの状況と話題があまりにも違っているため可笑しくて笑ってしまいました。そんな根岸京子ちゃんも我が同期の中で稀有な存在です。

途中で島に立ち寄ったときに生まれたばかりの海がめの赤ちゃんがいました。(ここニカは隣のコスタリカほどではないにせよ、海がめの産卵場所として有名です。)

とても可愛くて、一生懸命手足を動かして海に行こうとする姿は感動的です。

でも問題はその後みんなで入ったコメドールで、ソパ(スープ)を注文したら普通にさっき見た海がめの卵が入っているのです。オイオイと思いながらも食べてしまい(けっこう美味かった!)、なんか「可愛い」と「美味しい」を両方やってしまう僕は業の深い人間だなと感じます。

そんなこんなで今日この頃ですが、皆さんいかがお過ごしですか?もうすぐ2004年も終わってしまいますね。



僕の配属先の大学も休みに入りました。大学の講義自体は来年の2月いっぱいまで休みになりますが、僕達技工士は診療があるため1月中旬から仕事が始まります。

講義は技工士の方も学生の方も、結局今年中には終わる事ができませんでした。技工士に対しての講義は1月から再開予定です。

今回驚いたのが学生の講義に関してですが、学生に今年中に講義を終わらせることができないことを伝え、そのうえでどうしたいか尋ねました。つまり講義内容は途中だが今月いっぱい無理やり終わらせるか?もしくは休暇中に学校に来て講義の続きを行うか?です。

僕はどっちでもいいことを言い、あくまで学生の主体的な意見に任せました。そうすると彼らは休暇中に一週間だけ学校に来て、講義の続きを行いたいとの希望を言いました。

まあ嬉しいことは嬉しいんですが、なんていっても僕の学生達はみんなそろいもそろって忍者ハッターくん達、本当に来るのか?ちょっと心配です。

まあ来なかったら軽く殺すことを伝えているので、その時は同期でテコンドーの達人・山本景子さん制裁をお願いします。

あと1月から2ヶ月間だけ歯科医師に対しての講義を改めて行うよう上司から依頼されました。

僕の講義内容が認められたのは嬉しいですが、3月まで学生の講義から解放される！やったー！と思っていただけにちょっと複雑な心境です。

なんかこんな感じだと忙しい2005年になりそうですが、まあぼちぼち焦らずやっていきましょう。

皆さんも良いクリスマスと新年をお迎え下さい。冬とは全く無縁なニカラグアから祈っています。では。

クリスマスは海で波と戯れる予定の渡辺敬蔵



皆さんあけましておめでとうございます。皆さんはどの様な年末年始を過ごされましたか？

僕は海でボディボードや釣りをして過ごすことが多く、結構黒くなってしまいました。実際最近タクシーに乗ったときもニカ人の運ちゃんに「なんでニカ人のくせにスペイン語が下手なんだ？」と真顔で訊かれたり(オイオイ、俺はネイティブ日本人だって!!)、ただでさえ黒いカウンターパートに「黒過ぎ」と言われたり、益々人種判別不能になってきている今日この頃です。

ちょっと話が前後してしまいますが、実は4ヶ月位前から僕は仕事に少し行き詰っていました。

その理由は歯学部組織的な問題にぶつかっているからです。

どれも協力隊員であれば大なり小なり似たようなことがあると思いますが、大きく分けて二つあります。

まず配属先の上司は隊員を都合の良い人材としてしか考えていない事です。つまり僕の場合技術協力ですが、隊員を職場において置けば自分たちは何もせずとも勝手に技術が向上すると思っていることです。

当然職種によって違うと思いますが、技術向上のためには歯科医と技工士の連携・協力体制が大切なのにお互い干渉していません。

具体的には歯科医側は治療が不完全でマージンが不良の場合が多く、技工士側は適合性が悪い技工物を作っている現実があります。お互いに自分の行為が悪いことを知っているのに相手のせいにして改善しようとしないうし、特に歯科医はプライドがある為か技工士の意見を聞こうとしません。失敗を相手のせいにするから誰も仕事の責任を取らない悪循環。その上学生も技工知識がない歯科医から講義を受けているためか、技工操作が全くなっていません。

たしかに僕の要請内容は技工士に対しての技術移転ですが、これらのことを考えると技工士だけに技術を伝えても全く無駄で、歯学部全体の意識改革をする方が一見遠回りのようでも一番有効的だと思われれます。

こういった問題は日本を含めどこの国も一緒だなとため息交じりに思います。

もう一つはコペランテは組織的に不安定な存在である為発言力が弱いことです。

つまりコペランテは所詮コペランテであり管理職ではないため、仕事の「手助け」はできても「管理・指導」はやりづらい現実があります。最近この組織上の問題に当たっていてずっとスポイルされていました。



これらの問題を解決できなくともすこしでも軽くするためには、回りを巻き込み自分の活動を認めさせる力技と啓蒙活動しかないと思います。

発言力強化のためにも実習・講義をおこなっているわけですが、実習内容が講義の中でしか使われず臨床に応用されないのであれば、それは全く意味の無いことになってしまいます。最近少しずつ普段の仕事に講義で教えたことを応用させていますが、まだまだ時間が掛かります。

そして啓蒙活動としては学部長に問題解決の提案書を提出し直談判したり、また歯学部会議に出席して、今自分が技工士・学生におこなっている講義内容を臨床に応用することの有効性をうったえ、昔と今の臨床技巧物を比較さしたりetc……。

それらが認められた結果として今月31日から一ヶ月だけ歯科医の為の技工講座が始まります。

ずっとここ最近訴え続けてきた自分の意見が少し汲み取られたわけで、それはそれで嬉しいですが正直心配です。何故ならば今度の相手はプライドの高い歯科医ですからね、今までの技工士や学生とは訳が違います。(まあスーパーマリオのクッパみたいなものですね)

でもたった一ヶ月の短い講義であったとしても、ここで彼らに僕の理論や技術を認めさせることができれば、歯科医・学生・技工士の歯学部全体として仕事の良し悪しに係わる「基準」ができ、この「基準」を元に歯学部の連携を計り技術レベルを上げることができます。

当歯学部がニカラグア唯一の公立歯学部なので、上手くいけばこのことが将来ニカラグア全体の歯科のレベルを上げる礎になるわけで、そう考えると今からアドレナリンがでます。

そしてその一環として3月に今までの講義内容の集大成としてテストと卒業式をおこなう予定ですが、内容も公開テストにして広く学内に僕の活動を知らしめるつもりです。

そして今日知ったのですが、この僕の講義に直属の上司フェリックスが“生徒”として出席するとのこと。色んな意味で楽しみです。(ケツケツケツケツケ！！積年の恨みを晴らすとき。)

こんな感じで多分3月の中旬ぐらいまでの活動が僕にとって今後のターニングポイントになると思います。忙しい日々が続くと思いますが、30代の身体がもつか気をつけましょう！

次回状況をお知らせしたとき、笑顔で言えるか・泣き顔になっているか今はまだ判りません。笑顔で報告できることを祈りつつ……。

ついつい内容が長くなってしまいましたごめんなさい。渡辺敬蔵。



僕はレオンにある国立自治大学レオン校歯学部付属のラボラトリオで働いています。

毎日学校に通っていて思うことはキャンパスが広くて、野球場が5面、サッカー場も2面あり広大な敷地の中に校舎がポツンと立っている印象を持ちます。広大なグラウンドがあるためか結構クラブ活動も盛んで、大学の野球・サッカーの試合などは当大学で開催されることが多く、試合の際沢山の人が集まります。

でも実際はグラウンドと言っても整備されておらず草ぼうぼうで、そのためかキャンパス内は野良馬・野良牛が多く、結構我が者顔で歩いています。ときどきグラウンドに居るのが人間よりも野良馬・野良牛が多いときは、放牧場に校舎を建てたのかなと錯覚してしまいそうになります。

聞いたところによれば馬に乗って、学校に通っている生徒が居るとのことです。つまり授業中はグラウンドで、本当に放牧場よろしく放し飼いにしているとのこと。なんかとても牧歌的です。そんな感じの校舎に毎日います。



さて、前回の最後で笑顔で報告できるか？泣き顔になっているか？と書きましたが、今はグッタリした顔をしています。

今月歯科医に対して差し歯と義歯の実習・講義をそれぞれ週2回、午後2時から6時まで行っています。

午前中は毎日3時間技工士に実習・講義を行っている訳で当然パツンパツンに忙しいのに、前前回お知らせした学生の実習も2週間だけ同時進行で毎日朝から5時まで行いました。

この時は本当～に大変でした。正直言ってあと何回講義すれば終わるか指折り数える日々でした。

事前に講義の時間割りと予定表を渡しているにも係わらず、歯科医は集会があるからと言って勝手に予定を変更するし、学生は学生で僕が日程変更を事前に伝えているのに、聞いてないと言って予定の日に来なかつたりetc……。

とにかく相手に振り回されっぱなしで、最近家に帰るとグッタリする毎日です。

自分でも良くないと判っているのですが、複数の実習を同時に行ったため、当然それぞれの内容が散漫になってしまい反省点が多いものになってしまいました。

でも当歯学部内の歯科医9人に対し技工実習を行えたこと自体が画期的なこと、僕もビックリしたのが歯科医は普段学生に実習指導を行っているにも拘わらず、技工操作が全然できないのです。特に義歯の排列はこんなのでよく学生に教えているなと思う程下手です。と言うのも彼ら自身技工操作をしたことがない為、理論は知っていても実践が全くできないわけです。

これでは習っている学生が技工を出来ないのは当然だと思います。

また例のごとく言い訳ばかりでありあまりやる気の無い歯科医に対し、相手は年上にも関わらずコンコンと叱ったり。ニカに来てから確実に喜怒哀楽の表現が激しくなっているなと最近つくづく思います。

また我が上司フェリックスもやっぱりと言うか予想通りと言うか、忙しいことを言い訳にして、殆ど出席しませんでした。(この夕又キ親父が……。)

でも学生もなんだかんだ言いながら、休暇中にも関わらず約束通り出席したし、山本景子さんにテコンドーの制裁を頼まなくても済みそうです。(景子ちゃん、ゴメン！ネタにしました)

そしてこれらの実習・講義の集大成として3月に技工士と学生のテスト・卒業式を行います。

このテストに向けて技工士と学生と一緒に技工の練習をしました。このことで少しですが技工士が学生に技術を教え、手助けをしている姿を見ると感動しました。

そしてこの卒業式もちょっと歯学部全体に、プレッシャーを掛けることを色々やろうと考えています。(ケツケツケツケ、今にみてろ)詳しい内容はまた今度。

まあ焦って仕事してもいい結果は出ません。まずは来月の卒業式まで気を抜かず、ぼちぼち前に進みましょう。

卒業式が終わったら「明日のジョー」の最終回のようにになっている気がする渡辺敬蔵。(古いネタですみません！)



こんにちは。皆さんはどの様に毎日過ごしていますか？

今日本では桜が咲く頃ですね。日本に居る方々は自分の街にいつ桜前線が来るか、楽しみにしているのではないのでしょうか？

こちらニカでは今乾季の真っ最中です。

以前日本に居たとき、駒ヶ根で僕が先輩隊員にした質問を思い出します。

「ニカラグアでは季節はありますか？」と僕、それに対して先輩隊員は言いました「あるよ。『暑い』っていう季節と『くそ暑い』っていう季節がね。」

そう乾季はこの『くそ暑い』にあたります。

雨季には緑色した大地も今は見渡す限り茶色に変わり、ニカの自然の厳しさを物語っています。特に僕の任地レオンは暑い場所でも有名なだけに、とにかく暑い日々が続いています。

ニカ人に尋ねると5月まで日々暑くなってくるので、今はまだまだ涼しいほうだといえます。今でさえ日中気温は30度以上あるわけで、これでまだまだなんて言われてしまいブルーになります。

なんか最近日本の冬、『寒い』っていう感覚が懐かしく感じます。ああ、寒いところで鍋を食べてみたいと思う今日この頃です。

さて日本では3月といえば卒業の季節ですね。前回僕は3月に僕の講義の卒業試験&卒業式を行うことを書きましたが、先日無事終わりました。いやー正直言って疲れしました。

内容を簡単に説明すると、まず試験は技工士と学生がチームを組み、チーム対抗方式を取りました。何故かという以前書いたように、当歯学部では技工士と学生・歯科医の仕事上の連携が不足していて、それが問題となっているからです。

技工士と学生が組んで試験をすることにより、彼らの間でコミュニケーションが密になり、いい刺激になりました。

今回の試験は試験場を一般に公開することで刺激を与え、優勝チームは賞品が与えられ、かつ卒業式の後の飲み屋での飲み食いが全部無料になることを知らせました。勝ったチームの料金は誰が払うかと言うと、それは当然負けたチームです。

そのことを言うとみんな突然人格が変わったように練習に精を出しました。(みんなゲンキンだねー)まあこのようにゲーム性の強い試験でしたが、みんなにはいい刺激になりました。

でも結局フィエスタでの飲み食い料金は、以前僕が上司に言って歯学部から捻出してもらった50ドルで殆ど賄いました。

みんなタダ酒だと理由からか、直接関係の無い歯科医も飲み会に来ていて、本当にニカ人はゲンキンだなと強く感じます。(まったく、みんな俺に感謝しろ！！)



話が前後しますが、試験の後は卒業式をしましたがその中で日本文化紹介の一環として琴の演奏を行い、式の最後には日本食の紹介として牛丼とカレーの試食会を行いました。

この琴の演奏と日本食の紹介は大好評で特にカレーはどこでも人気です。カレーの美味さは全国共通ですね。前の晩夜中の2時までかかって作った苦勞が報われます。このイベントで学生と技工士に言ったのが、自分達のイベントだから自分達の手で自分達が楽しむためにやろうと呼びかけました。なので僕が総合的にプロデュースはしましたが、何事もみんなと相談しながら決めていき、思ったより技工士と学生そして歯科医の協力を得ることができ、上手くいきました。(特に同じレオンの同期隊員のみんな、協力ありがとう！！)

僕にとってこの卒業イベントの目的は、僕の講義の有効性を歯学部全体に啓蒙することでした。そのため人集めに日本食をふるまったりしたわけですが、あとは新聞記者を呼んだり、また本当は密かに学長を呼んで上司達にプレッシャーをかけるつもりでしたが、学長とは結局コンタクトが取れず呼ぶことが出来ませんでした。(あー残念！！)

でも結果として60人ほどの人が集めることができ、僕の意見を全体に周知できる機会が作れたわけで、まあ良かったのではないのでしょうか。

5月から始まる予定の別科目の僕の講義に出席したいと、終わったあと学生達全員みんなして言うてくれました。これには僕の涙腺が少しゆるんでしまいました。講義中は学生達に「やる気が無いんだったら出て行ってくれ！」と怒鳴ることもありましたし、ついむなぐらをつかんだりしたこともありました。(スイマセン、本当です。)

いつも無茶苦茶なスペイン語で講義をしていて、みんなごめんねといつも思っているだけに嬉しいです。

今も技工士の実習と講義は続いています。学生の講義は5月まで一休みです。今度はどんな学生と出会うでしょうか？今度はむなぐらを掴んだりすることがないようにしたいのですが…。

もうこれ以上暑くならなくていいと毎日祈っているが、多分自分の願いは神様に訊きいれられることはないと感じている。渡辺敬蔵



皆さん、こんにちは。

早いものでここニカに来て、一年が経ちました。

相変わらずポブレなスペイン語で四苦八苦しなながら生活している今日この頃ですが、世界に散らばっている協力隊同期の皆さんはいかがお過ごしでしょうか？

先日同期の隊員と一周年記念ということで、コングイナに一泊の旅行に行きました。

このコングイナはホンジュラスとの国境近くにある山のことで、山頂からホンジュラス・エルサルバドルの海岸線を見ることができます。山頂にはカルデラ湖があり、一周年記念とかけてこの湖の外周をハイキングすることになりました…が、実は殆ど遭難する一歩手前でした。

当然ニカ人ガイドが付いていたのですが、このニカ人ガイドはこの山の経験が全くなく道を知らずにガイドをしていたのです。であるため当然道に迷い、あまつさえ藪の中の道なき道でアップダウンを繰り返し、体力を消耗しているのに僕以外みんな十分な水を持っておらず、本当に危なかったです。

一緒に行ったメンバーの山本景子は体調を崩して涙目で歩き、竹内弘子はもう歩けないとベソをかき、根岸京子はもし遭難したらニカ人ガイドが僕達をマチェーテ(斧)で殺し、その血を吸って生き延びるんじゃないかとか、尾方貞子さん(JICA理事長)が記者会見するだろうとか、本当に豊かな想像力を働かせながらまるで小姑のように不満を爆発させながら歩き(ったく、もっとましな事を想像しろよ!!)、僕はこの「遭難」の二文字を回避するにはどうすればよいか真剣に考えながら歩き、高田パコだけはパワー全開で疲れしらずの野生児で、本当に皆のキャラクターが表れていました。

僕は野宿の可能性を考えていましたがサソリが居るので危険であることと、あと皆十分な水を持っていないことが致命的であったため何とか最短ルートを取り、無事に戻れたので本当に良かったです。

この後皆で温泉に入りながらビールを飲んだり、乗馬をしたり楽しい時間を過ごすことができました。

でも皆さん本当に山をなめてはいけません!! 残り一年無事に過ごすことができるよう気を引き締めて行きましょう。



最近の僕は5月から新たに始まる実習講義の準備をする毎日です。

今回も技工士と学生の二つのグループに分けます。当初の予定通り技工士にはアドバンスコースであるポーセレンと金属床義歯の授業をそれぞれ週2時間ずつ行い、5年生には全部床義歯、4年生にはクラウンブリッジ(差し歯)の授業を同じく週2時間ずつ行う予定です。(合計週8時間授業を行う予定です。フー!)

今回、技工士達と去年講義を受けた学生達に授業を行うにあたり、僕から一つ条件を出しました。それは今回から彼らが本格的に学生の授業のサポートをすることです。

というのも僕はあと一年で任期終了となるわけで、僕が居なくなっても彼らが自分で授業を行うことができるよう、今期の授業を今後の雛型に彼らがするためです。そして去年と同じ内容の授業を教えることで、彼ら自身が復習するためです。

であるため彼らは責任者として最低週一回は他の授業を補佐しないと、僕の授業を受けることができないことにしました。もう一つの特徴は今回から学生は年間授業料50ドルを僕に支払うことになりました。といっても僕が受け取るわけではなく、大学側が材料費にするためです。

僕にとって他に理由があるのですが、それは彼らが授業料を小額でも払うことによって僕の授業を受けることにプライドを持って欲しいからです。と言うのも去年授業を行ってみて、学生のモチベーションの低さをつくづく感じたからです。

このことは「貧富の差がなく、誰でも学ぶことができる場を等しく提供する。」と言う協力隊の理念に相反する考え方だと思えますが、技術を学ぶことに関してそれは駄目だと思います。

何故なら仕事の特性上違うから。

僕の技術はお金に直結するだし、人の健康に係わることだし、それにお金も払って僕が何年も掛かって手に入れたものを簡単に考えて欲しくないと思います。

僕の考えとして苦労せずに手に入れた技術は身に付かない、つまり技術を得るためにはやはりリスクを背負い、それ相応の代償が必要だと思います。

去年授業を開始するときに同じように授業料を徴収すべきだと、上司に進言したのですが却下されました。でも今回から僕の意見が汲み取られた訳で嬉しいですね。

それでもやはり50ドルは高かったかなと思いましたが、学生に尋ねてみるとわりと好感触なのでちょっと安心しています。前回お伝えした卒業試験&卒業式のイベントを大々的に学内で行ったことが、宣伝として功を奏しているようです。

いよいよ、僕の協力活動後半戦が始まります。エラー、失投、フォアボールetc…色々あるでしょうが、残り一年コールドゲームにならないよう締まっていきましょう！

相変わらずスペイン語初心者の渡辺敬蔵



皆さんこんにちは。

皆さんは仕事をどんな感じでやっていますか？僕ははいよいよ先月から学生の授業が始まり忙しいです…と言いたいたのですが、うそです。まだ始まっていません。(去年も同じことを言ったような気が…。)

原因は我が上司フェリックスとウエルガ(ストライキ)です。

今回もやってくれました。授業を行うことに際し、材料を注文していたのに上司が発注を忘れていたのです。

可愛い笑顔でいい訳をする顔を見ていると、映画「仁義なき戦い」のメインテーマと共に軽く殺意が頭をよぎります。(古いネタです。)

道具・材料がなければ当然実習はできません。(はー今年もまた遅くなってしまう…。)

そしてウエルガですが、事の発端は一ヶ月以上前にさかのぼります。

もともとはタクシー・バス運転手達が賃上げ要求としてウエルガを行い運賃が値上がったことで学生が怒り、今度は学生達が抗議行動としてバスに投石したりしています。ニュースを見るとマナグアでは学生達が警官隊と衝突している映像が映っています。

ここレオンではまだ安全だろうと思っていましたが、先日中央公園で口にバンダナを巻いたゲリラルックの学生が自家製の迫撃砲を打ち上げて奇声を発しています。

おかげでこっちとしては仕事になりません。何故なら講義の面接を行うことを事前に知らせていても、当日この学生の抗議活動で学校がロックアウトされていて誰も入れなかったり。

そのことで別の日に面接の日を変えても、今度は学生がバスを占領しバスルートを封鎖しバスの運行を止めたため、誰も集まらなかったり。

お前ら俺に恨みでもあるのか？と言いたくなるくらいタイミングよく邪魔してくれます。

先日学校に行っても仕事にならないため、帰ろうとしたら校門のところで学生達が集まっていて10台程のバスを取り囲んでいます、その中にいた僕の生徒に何をしたのか尋ねると、「あの黄色いバスは俺たちがハイジャックしたんだ。」と屈託のない笑顔で答えます。

おいおい、お前ら医者になるんだろ！人を助けるべき人間が人を襲ってどうするの？と言いたくなります。

ただ“ハイジャック”と書くと恐ろしいですが、実際見ていると乗客も学生の味方で学生達がバスに乗り込んできても笑顔で降りていますし、運転手達も占領された後学生と笑顔で話しています。

実際この占領されたバスの周りには既に屋台が並び、和やかな雰囲気であるでフェイスタをやっている感じです。

元々はバス運賃が2.5コルドバから3コルドバに値上がったことで抗議していることは理解しますが、だいたい0.5コルドバ(約4円)ぐらいの差がなんだと思います。

学生達はバス運賃が高いと文句を言いますが、見ていると本当にうちの学生達は歩かない。歩いて20分ぐらいのところでも歩きたくないと言って、平気でタクシーを使って通学しているし(レオンではタクシー代は市内で8コルドバ。約60円くらい)。

まずタクシー代から節約すればいいだろうとつくづく思うし、それに抗議は会社に直接すればいいだろうと思います。

あきらかに抗議の方向性が違いますし、これが日本人とニカ人との感覚の差なのかなと思います。



ただ今回この一連の抗議活動を見て、このカルシウム不足で血糖値が高そうな学生達を相手に、僕はこれから授業を行うのかと思うとちょっと恐いなと思います。

そんなこんなことがあり先日やっと学生の面接を行いました。今回は参加者が大幅に増えました。

クラウンブリッジ(差し歯)の授業は4年生14人、総義歯の授業は5年生11人。(でも今年もやっぱり大半が野郎でした。¡Quélástima!)

この中にはどっから聞きつけたのは既に卒業した生徒もいますし、去年は時間が合わず受けられなかったのが今年こそ受けたいと言ってくれる生徒もいます。

僕の授業は厳しいことで有名なようですが、それでもこれだけの人数が集まってくれたこと自体嬉しいことです。去年は5人だったのが一気に5倍に増えたわけでそれだけでも四苦八苦ものですが、まあ僕の生徒達の中に忍者ハットリくんも多数いるでしょう。

結局は合計で4、5人は途中で来なくなるだろうなと思っています。

そして技工士達には2科目(ポーセレン・金属床)の授業を各4時間行いますから、合計週4科目16時間授業を行う予定です。

これから少なくとも今年いっぱいまでは授業付けの日々が始まります。どうなることやら判りませんが、ポチポチで行きましょう。ではでは。

授業中、つまらないと言って学生に投石されないよう気を付けようと思う渡辺敬蔵。(なんて、もし本当にされたらこっちが逆ギレするでしょうが…。)



こんにちは。今回はちょっとシリアスな話題から。

先日、マナグアでエイズ感染者の社会劇を観に行きました。

これはエイズ感染者自身が役者となり、差別撤廃をうたうための社会劇を行ったのです。

僕自身生まれて初めて生でエイズ感染者と接し、彼らの話を訊きとても勉強になりました。ただ正直言って僕自身エイズ患者とただ単に話してみたい、見てみたいといった軽薄な感情があったのも事実で、そんな感情で彼らと接して良いのか？自問自答しました。

ただ彼ら自身もそんなこっち側の気持ちはお見通しのようで、僕のつたないスペイン語で言葉を選びながらの質問にも彼らは誠実に答えてくれました。(当然、直接的な質問には答えたくない人もいるわけで、そうでない人に尋ねたけどね。)彼らが勇気を持って社会に自分達がエイズ感染者であることをカミングアウトし、かつ社会に対し差別撤廃をしたい気持ちが伝わってきました。

ただ一番驚いたのが内容がシリアスなものにも関わらず、彼らは笑顔で発表するのです。そんな彼らの姿を見ながら強く感じたのが、日本の社会ではこんな発表はできないのではないかと思いました。だって日本の社会は閉鎖的だから。

たしかにニカは発展途上国だし国民所得だって低い。また道端で平気で僕たち日本人に「チノ！」(中国人のこと。蔑称)と言ったり、差別に対する認識も低い。

でも差別に対し認識が低いがゆえに、それを受け入れる度量自体は日本社会よりもオープンなわけで。それを考えるとニカのほうが経済的には苦しいけど、日本よりも彼らははるかに人間的に生きられる気がします。

単純に日本の社会がいい？、またニカの社会がいい？

その人の尺度によって違うけど、色々考えさせられました。

それにただ単純に、日本ではエイズ感染者と接する機会自体普通考えられないだろうし、こんな経験ができるのも協力隊に所属しているからで、なんか改めて今自分が置かれている立場の凄さを再認識しました。

別の日、エイズ関係の活動をしている他の国のボランティアにこの事を話しました。

そしたら彼女は別にどうしたのって感じで「実は三日前にエイズ患者が自殺したので、今日その葬式に出席したの。彼らもそうならなきゃいいけどね。」と淡々と答えるのです。

その話を聞いたあとで思い出したのは、演劇のあとエイズ患者たちが感極まって皆涙を流したことです。その涙には公演成功の喜びの意味もあったでしょうが、それよりもエイズに感染したことで、一生エイズと戦わなければいけない、どうしようもない「悔しさ」「悲しみ」「苦しみ」などがあったのでしょう。

ここニカはエイズ問題が一般的で、実際僕の生徒の大学生も友達2人をエイズで亡くしています。

この他の国のボランティアが言った何気ない言葉が僕の胸に突き刺さります…。



さて、僕の活動のほうはというと、いよいよ今年の学生の授業が始まりました。去年のことを反省し、今年からはもっと厳しく授業をすることをモットーとします。

例えば今年も講義を始める前から、面接時学生にルールを説明しました。内容も遅刻しない・欠席しない・宿題をする・僕の指示を守るなど簡単なことです。そして参加者の条件としてやる気があることを言ったうえでこのルールを書いた用紙にサインをさせ、約束を守れとさんざん言いました。

その結果、クラウンブリッジの授業初日、参加者の4年生14名全員時間前に教室で僕を待っていたのです。そして授業中、アシストする5年生もちゃんと後輩に教えているのです。これには感動しました。去年僕が行った活動は無駄になってないと感じ、嬉しくて涙腺がゆるみました。

でもその次の週からは…、また今年も一部の学生は欠席・遅刻するし、宿題もしません。

面接の際「やります。講義を受けたいんだ」と熱く語っていた学生に限って来なくなるとは、あーやっぱり僕の生徒達は忍者ハットリくんか妖怪口先女のようなようです。(去年と全く同じです。はあー進歩がない。)

僕のやり方として良くも悪くも相手の意思を尊重します。「お互い大人なんだからやるかやらないかは自分で決めなさい。」とよく言います。ですから、自分がやると決めたことを守れなかった時などは、相手が年上のカウンターパート・歯科医・または学生であろうが関係ありません。「大人のすることではない」と懇々と怒ります。

授業に来られない・宿題をしない理由はそれぞれあるのですが、やる気があれば自分で考えリカバリしようと考えます。それも出来ないような人に教えようとは全く考えていません。

最初からやる気のない人は時間の無駄だから来て欲しくないと言っているし、参加者の人数が減ればそれだけ一人一人に集中して教えられるので、まあこれはこれでいいかなと思っています。

ほかにも問題が発生しました。前回伝えたようにカウンターパート達は学生の授業で僕のアシストする約束でしたが、最近仕事が忙しいことを言い訳にして手伝えないといい出したのです。理由として納得できるので了承しましたが、問題は彼らがいづからアシストを再開するかです。話では7月からとのことですが、まあそこは二人である彼らのこと。かなり怪しいのでまた突っ込む必要がありそうです。

他にも技術的な問題も続出中です。とにかく何事もずっこけながらのスタートです。

とても今回書ききれませんのでまた今度…。

まあ何事もボチボチでんかってな感じです。皆さんもそれぞれの生活を過ごすのにボチボチ頑張ってください。

ではでは、今回はこの辺で。

早くも学生から「敬蔵はすぐ怒る」と言われ、「だったらやるべきことをやらんかい！」といつも答えてる渡辺敬蔵。



我が大学は7学部(歯学・薬学・教育科学・化学・法律・観光・栄養学)を持つ国立大学です。僕が居る歯学部の校舎の隣に薬学部があり、そこに台湾からのコペランテが居てコンピューターエンジニアとして働いていました。

2年前、短期間ですが僕も台湾に住んでいたため、いつも話す内容が台北にあるディンダイホン(台湾一有名なショウロンポウ専門店。ちなみに新宿高島屋の中に支店があります。)は値段のわりにおいしくないとか、シーリン夜市の四海大王のクオテイ(焼き餃子)は安くて美味しいなど、彼女とよく食べ物のことばかり話していました。このニカラグアで台北のどこの店が美味しいなんて話、全く意味無いですよ。なんかへんな感じです。

でもここレオンは中華料理を食べられる店が全く無いし、特にショウロンポウなんて僕が知っているかぎりニカには存在しない!!おかげで最近中華料理が恋しくて仕方ありません。ショウロンポウは台湾では朝食のメニューとして位置づけられていて、台湾に居た時僕も毎日食べていました。おかげで無茶苦茶太ってしまいましたが、あーショウロンポウを食べたい…。

過去形になってしまっていますが、実は先日この彼女が突然台湾に帰ってしまいました。以前から仕事の不満を言ったり、彼氏と早く結婚したいとか色々言っていました。あまりにも急でビックリしました。見た感じそんなに思い詰めているとは思えなかったですが、やっぱり異国の地で仕事をして知らず知らずの内にストレスを溜めてしまったんだなと感じます。

自分を含め、世界中にいる協力隊同期のみなさん気をつけましょう。

でも人には「気をつけましょう。」と言えますが、最近僕自身ストレスフルな毎日です。

理由は大きく分けて二つになります。



一つは授業を行ううえで、前準備に膨大な時間とエネルギーを費やされていて、臨床での指導ができないこと。もう一つは学生の我がままに振り回されることです。

授業についてですが、ここニカでは授業を行う上で無いものも多く、とにかく何もかも手作りです。技工士用教科書も元々ニカに無いため、僕が学生時代使っていたものをスペイン語に訳して利用したり、歯の模型も日本から持ってきた模型から複製を作ったり、また僕がカービングして作った模型を見本にしたり、暗中模索の中進んでいます。

毎日行っている授業は大抵午前中なので午前中は授業の用意をしています。午後は授業の資料・模型・教科書を作ったり、この先行う作業の過程を自分が先に行い、問題ないか確認したり、また参加者の宿題を見たり採点したり本当に先生みたいなことをやっています。

あと上司からは臨床の仕事(特にポーセレン、陶材の差し歯)をやるように言われたりしますが、自分としては授業をする事が優先順位として高いため、なるだけ断っています。去年まではそこそこ上手くいっていましたが。何故なら授業内容がベーシックなので、それ程道具や資料が必要とされなかったからです。

ですが今期から「ポーセレン」と「金属床義歯」の授業を行うにあたり、大きな壁にぶつかっています。

この「ポーセレン」と「金属床義歯」ですが、高付加価値で複雑な技術なため失敗を多発しています。

また理論を教えることについても膨大な専門用語と格闘する日々が続いています。と言うのも当然実習では、誰であろうとそこそこ上手く出来るやり方を僕が教えなければ意味が無いわけで、教える前に僕が確認のため色々試す必要があるわけです。問題はラボにある材料・機械・道具自体、日本では見た事もない物ばかりで、僕自身使った経験の無い物ばかりであることです。

ニカの技工士や歯科医兼教授に尋ねても、特にポーセレンは説明書が無い。彼ら自身も使ったことが無く、全く判らないとの事。(おいおい、こんなんじゃ俺に仕事をふるなよ。日本のコペランテは便利屋じゃないんだから!!ハアー。)5ヶ月ぐらい前からこのことを見越して、時間の合間を見て少しずつ試してきました。

今まではこの実習も基本的なことをやらせて時間を稼いできましたが、最近やっと僕の失敗も減り、少しは教えることができるレベルになってきました。でもまだまだレベルが低い。JICAの在外研修制度に応募して、僕自身近隣諸国に研修しに行きたいと思っています。

このように、ただでさえスペイン語の教科書作りに膨大な時間が割かれる上に、この確認作業を行うことで、臨床の指導が全くできない状況が続いています。授業で教えた技術を講義だけで終わらせて、臨床に応用しないのであれば全く無意味になってしまいます。

このことが一番大切なのに、このままでは手段が目的になってしまった本末転倒のいい見本になってしまいます。そして時間を割かれるもうひとつの要因は学生の我がままに振り回されることです。このことに関しては、今回とても書ききれませんのでまた今度。

皆さんもポアポコでボチボチ進んで行きましょう。ではでは。

まずいなー、今回のニカ通信オチがないや。俺自身煮詰まっているのかなー?と
感じている渡辺敬蔵



皆さんこんにちは。早いものでもう11月ですね。

日本では秋真っ盛りで、食べ物が美味しい季節になっているのではないかと思います。皆さんいかがお過ごしでしょうか？

今回はちょっと学生の話から。

僕が普段受け持っているクラスの中にエルビスと言う学生がいます。

たまには学生達と飲みに行く機会もあるわけですが、その中でも彼とはよく飲みます。

数ヶ月前、いつものように飲んでいる席で、彼が急に相談したいことがあると言ってきたので、尋ねてみると友達の女の子を妊娠させてしまったとの事。その相手とは僕も知っている同じ学年の女の子。

その子からは勿論ですが、周りの親・兄弟からも結婚しろと犬のように急き立てられているが、どうしようとの事でした。

「やっぱり結婚したほうがいいんじゃないの？ 俺だったら責任とって結婚するね」と答える僕。

でもそこまで彼女のこと好きじゃないし(オイオイ!)どうしよう。最後には密かに持っている銃で自殺しようかなどと、散々グチをこぼすのを聞いた後、話題を変えて彼が発した言葉は「敬蔵。今度レオンに新しくストリップ小屋が出来たんだけど、一緒に行こうよ!!」と眼を輝かせて言いました。……アホです。

…とこのようにファンキーな学生のことから書き始めた今回ですが、ちょっと趣向を変えて学生との係わりをメインに書きたいと思います。

僕はいつも講義の最初に日本語の講座を10分程ですが行っています。

それで毎回始める際に日本語の挨拶から始めていますが、僕の場合例えば「Hola! Como esta usted?」(やあ! 元気ですか? とてもカジュアルな挨拶)を「まいど! 調子はどうでっか?」と教えています。

それに対して答え方も「mas o menos」(普通・まあまあ)を、「ぼちぼちでんな!」と教えています。

当然、日本は東と西で文化が少し違うことは説明済みですが、町で日本人を見かけたら積極的に声をかけるように言っています。

先日レオンの町を歩いていたら遠くの方で「まいどーまいどー」と呼ぶ声がしました。見たらやっぱり僕の生徒です。うれしいですがちょっと余計なことを教えたかなと言う気がします。

ですが今まで僕の授業を受けた生徒が合計50人程いるわけで、ここレオンで「まいど！」と声かけられたらそれは100%僕の生徒です。みなさんもしレオンに来ることがあれば、是非笑顔で相手をしてあげてください。

最近を受講する学生もよく日本語を吸収しています。

例えばつい僕が独り言で言ってしまう「まいつか」とか「そーだなー」とかカウンターパート達も真似したりしますし、思わずつい言ってしまう「聞けよ！ por favor(意味はお願いします。英語で言うプリーズみたいなもの)」、「見ろよ！ por favor」、「早くしろよ！ por favor」は全然理解しています。(おいおい！それって全然スペイン語じゃないって)

講義中言葉に詰まると「みんなは何故日本語がしゃべれないんだ？ みんなが日本語を理解できればいいのに」と言う(そりゃ、逆切れだって)、みんな笑いながら首を横にふります。

こんな感じだからか、「敬蔵。お願いだからスペイン語で教えて！ 私達日本語判らないから！」と一人の学生から以前しみじみ言われました。

それに対し「もし奨学金が取れて日本に行く機会があれば役立つだろう」と僕が言い訳をすると、「mentiroso(うそつき)」と彼女。

はあ一情けない。この思いは協力隊員であれば大なり小なり感じる事だとは思いますが、

なんでこんなにスペイン語がしゃべれないのだろう…としみじみ感じます。

また参加者が講義に遅刻したときは、「ゴメンナサイ。私は遅刻をしました。」と日本語で謝らせていますが、先日僕が誤解したため自分自身遅刻した時など、僕が学生の前で謝らせられました。

とこのように情けない話を何故カミングアウトしたかと言うと、最近のニカ通信からどうも僕は傲慢で怒ってばかりいると思われているようなので。

たしかに授業中怒ることは多いと思いますが、同時に特にスペイン語に関し学生から注意されることも多いわけで、まあこれでバランスを取っているのかなと、自分に都合よく解釈しています。

こんな感じでしたっただしながらの僕の活動も残り4ヶ月少々になりました。

配属先から僕の任期延長の話がチラホラ聞こえてきますが、僕自身まだ自分の活動の終点が見えません。

うーんどうなることやら。ではでは。

そのうち僕のスペイン語の能力より、参加者の日本語の能力が勝る日が来るかもしれない。密かにそう願う機会が多くなっている今日この頃の渡辺敬蔵。



最後に最近あったちょっと嬉しいことを報告したいのですが、僕の学生の何人かが「将来日本の大学院に行って歯科の勉強をしたい。そのために日本の奨学金を受けたい。」と言ってきたのです。嬉しいですね。まあ僕の生徒はホラ吹き童子たちですから本当にやるか？ちょっと疑問ですが、単純に僕に言ってきたこと自体が嬉しいです。

だって彼らは僕と関わったことで日本の歯科技術に興味を持ち、学びたいと思ったわけで、少なくとも僕は彼らの将来の選択肢を増やしている訳ですから。

そう考えると僕の活動も少しは意味があるのかなと思う今日この頃です。

今回のニカ通信いい言葉で最後しめたなーと思っているが、明日になったらどうせこりずに怒るんだろうなと感じている渡辺敬蔵。



皆さんこんにちは。早いものでもう11月ですね。

日本では秋真っ盛りで、食べ物が美味しい季節になっているのではないかと思います。皆さんいかがお過ごしでしょうか？

今回はちょっと学生の話から。

僕が普段受け持っているクラスの中にエルビスと言う学生がいます。

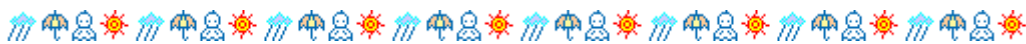
たまには学生達と飲みに行く機会もあるわけですが、その中でも彼とはよく飲みます。

数ヶ月前、いつものように飲んでいる席で、彼が急に相談したいことがあると言ってきたので、尋ねてみると友達の女の子を妊娠させてしまったとの事。その相手とは僕も知っている同じ学年の女の子。

その子からは勿論ですが、周りの親・兄弟からも結婚しろと犬のように急き立てられているが、どうしようとの事でした。

「やっぱり結婚したほうがいいんじゃないの？ 俺だったら責任とって結婚するね」と答える僕。

でもそこまで彼女のこと好きじゃないし(オイオイ!)どうしよう。最後には密かに持っている銃で自殺しようかなどと、散々グチをこぼすのを聞いた後、話題を変えて彼が発した言葉は「敬蔵。今度レオンに新しくストリップ小屋が出来たんだけど、一緒に行こうよ!!」と眼を輝かせて言いました。……アホです。



…とこのようにファンキーな学生のことから書き始めた今回ですが、ちょっと趣向を変えて学生との係わりをメインに書きたいと思います。

僕はいつも講義の最初に日本語の講座を10分程ですが行っています。

それで毎回始める際に日本語の挨拶から始めていますが、僕の場合例えば「Hola! Como esta usted?」(やあ! 元気ですか? とてもカジュアルな挨拶)を「まいど! 調子はどうでっか?」と教えています。

それに対して答え方も「mas o menos」(普通・まあまあ)を、「ぼちぼちでんな!」と教えています。

当然、日本は東と西で文化が少し違うことは説明済みですが、町で日本人を見かけたら積極的に声をかけるように言っています。

先日レオンの町を歩いていたら遠くの方で「まいどーまいどー」と呼ぶ声がしました。見たらやっぱり僕の生徒です。うれしいですがちょっと余計なことを教えたかなと言う気がします。

ですが、今まで僕の授業を受けた生徒が合計50人程いるわけで、ここレオンで「まいど！」と声かけられたらそれは100%僕の生徒です。みなさんもしレオンに来ることがあれば、是非笑顔で相手をしてあげてください。

最近を受講する学生もよく日本語を吸収しています。

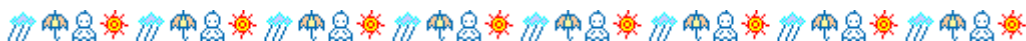
例えばつい僕が独り言で言う「まいつか」とか「そーだなー」とかカウンターパート達も真似したりしますし、思わずつい言う「聞けよ！ por favor(意味はお願いします。英語で言うプリーズみたいなもの)」、「見ろよ！ por favor」、「早くしろよ！ por favor」は全然理解しています。(おいおい！それって全然スペイン語じゃないって)

講義中言葉に詰まると「みんなは何故日本語がしゃべれないんだ？ みんなが日本語を理解できればいいのに」と言う(そりゃ、逆切れだって)、みんな笑いながら首を横にふります。

こんな感じだからか、「敬蔵。お願いだからスペイン語で教えて！ 私達日本語判らないから！」と一人の学生から以前しみじみ言われました。

それに対し「もし奨学金が取れて日本に行く機会があれば役立つだろう」と僕が言い訳をすると、「mentiroso(うそつき)」と彼女。

はあー情けない。この思いは協力隊員であれば大なり小なり感じることは思いますが、なんでこんなにスペイン語がしゃべれないのだろう…としみじみ感じます。



また参加者が講義に遅刻したときは、「ゴメンナサイ。私は遅刻をしました。」と日本語で謝らせていますが、先日僕が誤解したため自分自身遅刻した時など、僕が学生の前で謝らせられました。

とこのように情けない話を何故カミングアウトしたかと言うと、最近のニカ通信からどうも僕は傲慢で怒ってばかりいると思われるようなので。

たしかに授業中怒ることは多いと思いますが、同時に特にスペイン語に関し学生から注意されることも多いわけで、まあこれでバランスを取っているのかなと、自分に都合よく解釈しています。

こんな感じでしたもんだしながらの僕の活動も残り4ヶ月少々になりました。

配属先から僕の任期延長の話がチラホラ聞こえてきますが、僕自身まだ自分の活動の終点が見えません。

うーんどうなることやら。ではでは。

そのうち僕のスペイン語の能力より、参加者の日本語の能力が勝る日が来るかもしれない。密かにそう願う機会が多くなっている今日この頃の渡辺敬蔵。



もうすぐ日本でもお正月 & クリスマスのVacacionesの季節到来!!とゆうことで、心ウキウキしている人も、おられることでしょう。

ここニカは国民の大多数がカトリック教徒であるため、クリスマスシーズンはとても重要で、このクリスマスシーズンは12月8日に行われたプリシマと呼ばれるお祭りから始まります。

このプリシマとは聖母マリアが受胎告知された日を祝う祭りです。ということはマリアはキリストを産む二週間ぐらい前に、やっと自分が妊娠していることに気付いたことになるわけで、そう考えるとマリアはかなり鈍感な女性だったんだなとちょっと不謹慎なことを考えます。

これはどういった祭りかという、信心深い家庭が玄関口にキリストが誕生する場面などを再現した置物を飾り、来客をもてなすというものです。

そして、客が「Quien causa tanta alegria? (誰がこの喜びの原因となったの? 上手く日本語に訳せません)」と言うと、家の人間は客に物を恵まなければいけないのです。

この与える物はキャンディーやガムといった、ちょっとしたお菓子が一般的ですが、家庭によっては洗剤・皿・塩・タッパーなど生活用品から、おもちゃ・マリア様の置物など多岐にわたります。

だからニカ人の子供から大人までプレゼントをくれる家に群がり、玄関の柵の間から手を伸ばし物をねだっている状況は、まるでゾンビ映画のワンシーンのようです。

特に僕の任地レオンはこのプリシマ発祥の地なので、規模も大きくニカ中から人が集まります。

この例に漏れず僕の同期隊員の女の子達もここレオンに来て、一緒にレオンの町を回りました。

彼女達は片手に袋を抱え、プレゼントを配っている家庭に果敢に挑み、ニカ人を押しつけ次々と物をゲットしている姿を見ると、あなたたちはバーゲンに群がる主婦か?と言いたくなります。袋がいっぱいになっても、まだまだ物を際限なく取ってくる彼女達の意見としては、この行為自体が楽しいとのこと。

そんな彼女達を見ていると、やはりニカも日本も一般的に女性は物に対する執着が、男よりも強いんじゃないかなとしみじみ感じます。

さてそんなこんなのクリスマスシーズンも始まりましたが、やはり今年も学生の講義は今年中に終わることは出来ませんでした。

とにかく学生は遅刻・欠席が多い! 他の授業が忙しいのは判りますが、参加費の50ドルがもったいないとつくづく思います。

それで参加した学生の自由意志に任せたところ、今年も4年生・5年生の二つのクラスとも、集中講義を2週間ずつ来年1・2月に行い、これまでの遅れを取り戻すことに決まりました。

もし来なかったら3月に行く予定の僕の講義の卒業式に出席できず、ディプロマ(卒業証書、認定証)を渡さないことを伝えました。

しかし、この1月・2月は学生にとっては休暇中にあたり、本来学校に来る必要がない期間なので、正直言って本当に来るのか？心配です。



また先日、JICAニカラグア事務所に私のニカ人上司・ドクトール フェリックスとカウンターパートと僕で僕の任期延長の要請をしに行きましたが、結果として認められませんでした。

理由としては配属先上司が僕の任期延長に対して積極的に動かなかったからで、なんかニカ人の馬脚が現れたって感じです。

実際、後任隊員を要請していますがすぐに来る可能性は極めて低く、カウンターパートたちが僕の任期延長を一番望んでいます。

皆で協力して上司を説得しましたが、この上司の申請手続きで不手際が多く話しになりませんでした。

例えば申請書にしても、カウンターパートたちがスペイン語で詳しく原稿を作ったにもかかわらず、内容をちゃんと見ず、現実に即していない内容の薄い原稿を作り、その上JICAに送る前に僕がチェックしてから送ることを、散々口が酸っぱくなるまで念を押しといたにも拘らず、不備な原稿を勝手に送ったり。

任期延長についての重要なJICAとの会見日も一時間以上遅刻し、かつ遅れることについて何も連絡しない。

もう正直言ってこの上司の行動には僕も怒り、カウンターパート達も呆れていました。

口では残って欲しいとか言うますが、本当は僕の活動に興味ないんだなとつくづく感じました。

ただ少しフォローすると、このように配属先が僕の任期延長のためにわざわざ時間を作り、車を用意し、首都まで話をしに行ったこと自体ここニカでは凄いことだと思います。

だから任期延長して欲しい気持ちがあるのは判りますが、なんにせよ全てのことで詰めが甘い!!

これって本当にニカ人または発展途上国の人々の大きな特徴で、いいところでもあり悪いところでもあると強く感じます。

このことについてはまた今度。

今回愚痴っぽい内容になってしまいました、すみません。

では皆さんにとって良いクリスマスと新年が迎えられることを一年中夏のニカラグアから祈っています。

ではでは。

今年のバカシオネスはニカ中を旅行し、コスタリカに行く予定の渡辺敬蔵。